

9「南三世代交流プラザ 三世代交流のつどい」（新潟県上越市）

1. 概要



運営主体	南三世代交流プラザ運営協議会		
所在地 (基礎自治体)	新潟県上越市	人口規模* (基礎自治体)	186,630 人(R4.3.1 現在)
(活動範囲)	南本町小学校校区	(活動範囲)	約 5 千人
活動拠点の種類	上越市南三世代交流プラザ 土地を地域が提供・建物を市役所が建てる形で、2000 年に建設着工		
活動開始年	2001 (H13) 年		
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・上越市南三世代交流プラザ（以下「交流プラザ」と記載）を活動拠点として、子どもたちが、地域コミュニティの中で様々な世代の人々とのふれあいを通じて、社会性を育むための体験と交流を促進し、そのことによって、少子高齢時代における地域活性化を図る。 ・地域住民(高齢者や子育て家庭、子ども等)を対象に、居場所づくりや、世代間交流活動として「雁木通りまつり」、「三世代交流のつどい」などの交流活動を実施。 		
対応する地域課題	地域のつながりの希薄化		

*人口出典：上越市 WEB サイト「人口世帯・推移」 <https://www.city.joetsu.niigata.jp/soshiki/shiminka/jinko.html>

2. 活動の展開プロセス

■ 地域の状況

- ・平成初期までは、自然増の状態が社会減の数をカバーする中で人口が概ね維持されていたが、2005（H17）年以降は、社会減に加え自然減の状態に転じたことで、人口減少数が拡大傾向で推移している。
- ・2005（H17）年の合併により、地域ごとに地域協議会が創設されるなど、地域の活動が活性化している側面もみられる。

■ 背景～当時の市長の公約から拠点の整備が実現

- ・当時の市長の政策「子育てするなら上越市」の一環で、南本町小学校区をモデル地区として、土地を地域が提供・建物を市役所が建てる形で地域の活動・交流拠点「上越市南三世代交流プラザ」が誕生した。

■ 継続的な運営体制づくり～「南三世代交流プラザ運営協議会」の結成

- ・南本町小学校区にある9つの町内会やこども会、老人会などの代表、小中学校、市役所こども課で協議会をつくり、施設の管理運営にあたる（9町内会の会長、老人会・子供会・婦人会・民生委員の代表、小中学校の校長などが構成メンバー）。
- ・三世代間の交流に当たっては、当初から学校を軸に、小中学校とコミュニケーションをとりながら、企画・実施を図った。

持続可能な運営体制づくり

POINT

小中学校と主な地域組織の代表からなる「南三世代交流プラザ運営協議会」を結成。当初から小中学校と、市役所こども課も、運営協議会のメンバーとして参画した。イベントを組む場合には、別途実行委員会を立ち上げて運営。分担しあいながら、責任を持ち合う方法を使った。

■ 子どもの発想を生かした交流活動、コミュニティづくり

- ・交流プラザでは、お年寄りと幼稚園児・小学生から高校生までの子どもの交流をはじめ、さまざまなサークル活動の拠点として利用され、2022（R4）年初めまでにのべ利用者37万人を達成。
※運動、趣味のサークルや9つの各町内会、南本町小学校、城西中学校の活動で利用
- ・交流プラザでのサークル・交流活動とは別に、雁木通りまつり、青田川の清掃等、子どもの発想を生かした交流、コミュニティづくりを進め、現在も継続している。
- ・2003（H15）年 第1回雁木通りまつり開催。以降継続して毎年実施しているが、「雁木通りまつり」は毎年3,000人が訪れる、三世代交流の一大イベントに！姉妹都市との連携も生まれ、更なる広がりを見せている。
- ・上記以外にも、これまでに下記のようなイベントを開催している。
 - ・映写会（子どもたちの平和学習活動の一環として）2006（H18）年
 - ・文化事業 2008（H20）年
 - ・三世代交流のつどい 2014（H26）年～
 - ・食事交流会

子どもたちの提案から活動（イベント）メニューを決める

POINT

当時の南本町小学校の先生のアイデアで実施した「地域プラン・キッズプロジェクト提案」。どうしたら地域が元気になるかということ、子どもたちが地域に提案してくれ、それらのいくつかを形にした。その代表的なものが、雁木通りまつりと青田川の清掃であった。

■ 活動資金の確保

～イベントの開催には、自分たちでできる工夫と市からの助成金を組み合わせて！

- ・開設後入場者1万人達成など、節目ごとにイベントを開催してきたが、他方でイベントの開催には、何かとお金がかかる。その場合は、イベントの開催にかかるお金の範囲で、スポンサーを募る、飲食を伴うイベントの際は、出店料や出演料をもらうことも工夫した。
- ・市の補助金（地域活動支援事業）も活用。

- ・交流プラザの管理については、当初より、市が管理人を雇用していたが、2017（H29）年度から、施設の管理運営業務を地元運営協議会に委託。その背景には、運営協議会への委託による施設管理の方が、市が直接管理人を雇用するよりも、運営業務が継続的効果的に担えるのではないかと、との市の思いがあった。

イベントの開催費 まずは自分たちでできる工夫と助成金の活用

POINT

イベントの開催には何かとお金がかかるが、イベントの開催にかかるお金の範囲で、スポンサーを募る、飲食を伴うイベントの際は出店料や出演料をもらうことも独自に工夫している。また姉妹都市と連携し、出店で名産品の販売を行ってもらうことで、誘客を図った。

■活動の周知や地域の理解

- ・もともと地域組織の代表、学校、市役所による協議会を結成していることもあり、一定の周知は得ていたが、「雁木通りまつり」等のイベントについては、広報による周知や職員のイベント参加など、上越市から協力を得ている。
- ・また、当該地区には、各戸向けに町内放送を流しているが、イベントの案内等に活用することで、短期間での集客促進を図っている。

イベントの周知は、市広報誌と「町内放送」が効果的

POINT

「雁木通りまつり」等のイベントについては、市広報による周知を図るとともに、当該地区各戸を対象とした「町内放送」を行うことで、短期間での集客を図っている。

3. 今後に向けて

■学校でも家庭でもない第三の「居場所」機能、ふるさとへの愛着として

- ・交流プラザの活動を通じて、これまでも不登校の子どもたちが何人か参加していることがわかった。交流プラザに来てくれるということは、そこが彼らにとって一定の「居場所」になっているのではないかと感じている。
- ・上越市では、若者が都会に出てしまうことで人口減少が続いている。交流プラザを核とした、こうした子どものふるさととのかかわりが、何かの時に、「上越に戻ろう」と思えるきっかけになってほしい。

■活動継続・展開に向けた、年齢層の若い街づくり団体とのネットワークの展開（課題と抱負）

- ・地域が疲弊し、地域活性化が課題となっている。これまでは、自分たちの感覚（皆 70 代以上）で動いてきたが、次の世代にバトンタッチして、新しい人たちに違うやり方でやってほしい。そのためにも、若い世代が比較的多く参加している組織やまちづくり市民大学、観光コンベンション協会、商工会議所等の人びとの助言や力を借りたい。
- ・行事は休日に実施されることが多く、準備にも日数がかかり、休日の作業も発生するため、学校・事業者など協力者の負担をどのように減らしていくかが今後の課題である。

活動団体の情報	<p>南三世代交流プラザ運営協議会 上越市南本町 3 丁目 2-26 TEL 025-521-3737 視察の受け入れ 可 ※下記 市役所子ども課までお問合せください。 TEL:025-520-5725 (内線 : 1235)</p>
---------	--